

ノホ口の丘小学校のいじめ防止基本方針

令和7年4月1日

1. いじめ防止に関する基本的な考え方

◎ノホ口の丘小学校の基本理念

1. 私たちは、他の人をいじめません。
2. 私たちは、いじめられている人を助けます。
3. 私たちは、一人ぼっちの人を仲間に入れます。
4. 私たちは、もし誰かがいじめられていれば、それを学校の大人や家の大人に話します。

◎具体的ないじめの態様には、次のようなものがあると考える。

- ・理由もなく意地悪なことをされる
- ・冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる
- ・仲間はずれ、集団による無視
- ・**接触をわざと避ける 触れられたところを払うようなそぶりをする**
- ・軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする
- ・ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする
- ・金品をたかられる
- ・持ち物を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする
- ・嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする
- ・パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる

個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的にすることなく、いじめられた児童の立場に立つことが必要である。

例えばいじめられていても、本人がそれを否定する場合が多々あることを踏まえ、当該児童の表情や様子をきめ細かく観察するなどして確認する必要がある。

いじめは大人の目に付きにくい時間や場所で行われたり、遊びやふざけあいを装って行われたりするなど、大人が気づきにくい判断しにくい形で行われることを認識し、ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いをもって、早い段階からの確に関わりをもち、いじめを隠したり軽視したりすることなく積極的にいじめを認知することが必要である。判断に迷う場面では、**行為を行っている児童に「大丈夫？ なにかあった？」**など声をかけたり、他の職員への報告を行い多数の目で見守ったりするようにしていく必要がある。

2. いじめの未然防止の取組

いじめはどの児童にも起こりうるという認識を踏まえ、全ての児童を対象にいじめに向かわせないための未然防止に取り組む。

◆学校としての姿勢

- ・いじめを許さない、起こさせないという意志を保護者・児童に学校便り・全校朝会等で定期的に伝える。

- ・「自分が大切にされている」と、子ども一人一人が実感できる学校づくりを行うため教育活動全般において以下のような取組を大切にしていく。

◎児童が主体的に参加する授業づくり

- ・基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図り、子どもがわかる授業、できる喜びを実感できる授業を行う。
- ・体験的な活動や言語活動、問題解決的な学習活動を取り入れた授業を行う。

◎豊かな心を育む道德教育の充実

- ・道德教育を通して、思いやりの心、いのちを大切にする心を育む。
- ・お互いの人格を尊重し合える態度や心の通う人間関係を構築する能力の素地を養う。
- ・ネチケット学習を通して正しいインターネットの使い方を指導する。

◎あいさつ運動の推進

- ・お互いにあいさつを交わすことで、温かい人間関係を築く。

◎異学年活動の充実

- ・児童会を中心にクラブ活動や委員会活動等を行い、相手を思いやる心を育むとともに、日常的な遊びの輪を広げる。

◎畑を利用した栽培活動の充実

- ・栽培活動を通して、優しい心を育む。

◎学級づくり

- ・ルールがあり、秩序があり、安心安全が保証された学級づくりを行う。
- ・互いにかけがえのない人間としての尊厳や個性、多様性を認め合い、支え励まし合う温かい人間関係を形成していく。
- ・教師と児童、児童と児童の間に心のつながり（信頼関係）のある関係づくりを行う。
- ・自己有用感（「自分の属する集団の中で、自分がどれだけ大切な存在であるかということ」を相手からの好意的な評価や反応によって自分自身で認識すること）や充実感を感じられる学校生活づくりを行う。

◎研修

- ・学校力向上のための研修を行う。（研究部、教務部との連携）

◎対処療法的指導

- ・健康調べ、授業中で普段と違う様子が見られた場合は、声をかけるなどの手立てをとり、その困り感を把握する。
- ・子どもたちとの日常の会話や掃除給食当番での子ども同士の関わり合いから、「疎外

行為」や「嫌悪感」がないかを複数の目で見守り、いじめの早期発見のアンテナを高くする。

◎地域で見取る

- ・スクールゾーン実行委員会、PTA活動等の取組を通し、地域の方々にも協力をお願いし、子どもたちへの声かけ、見守りを行っていただく。

3. いじめの早期発見の取組

いじめは大人の目に付きにくい時間や場所で行われたり、遊びやふざけあいを装って行われたりするなど、大人が気付きにくく判断しにくい形で行われることを認識しなければならない。また、些細な兆候であっても、いじめではないかとの疑いをもって、早い段階からの確に関わりをもち、いじめを隠したり軽視したりすることなく積極的にいじめを認知することが必要である。

◇見かけたときに、すかさず声をかける。

「何かあったの?」「その行為は、いじめだね。」

◇担任や他の教職員に相談する。

◎日常的に児童の様子に目を配る

「いじめはどの子にもどこの学校にも起こり得る」「いじめは見つけにくい」という認識のもと、児童が発する小さなサインにいち早く気付く。暴力を伴わないいじめは気付かず見過ごしやすいことから、些細な兆候であっても「いじめ」ではないかとの疑いをもつなど日常的な観察や声かけなどの関わりにより、子どもの変容を見いだすことが重要だと認識しておく。

◎児童との信頼関係を気づき、相談できる環境を整える

教師の姿・・・口が堅い、話しやすい、相談に来た児童を全力で守る

いじめの有無についての判断は、担任一人で決めることなく、組織に諮り判断すること。

◎家庭訪問、懇談、連絡帳、電話等で家庭との連携

保護者との情報連携について検討し、家庭との信頼関係を構築することを重視しながら、家庭から情報を収集し、今後の協力についても依頼する。

◎いじめアンケートの実施（毎年11月）

- ・教育委員会による「悩みやいじめに関するアンケート」を11月に実施するほか、教育相談をその都度実施し、子どもの様子を客観的に把握する。
- ・いじめ防止対策委員会を学年ごとに開催し、アンケートの結果からいじめの状況を組織で確認、判断する。アンケートの結果は、児童情報共有システムに記録する。（経年の記録を一覧にまとめる。）
- ・アンケートについては、中学校へ引き継ぐこと。（卒業時には、小学校4年生からアンケートを中学校に引き継ぐ。）

4. いじめの対応

◎校内組織的対応

- ・ いじめの相談、通報を受けた場合には、すぐに、いじめ防止対策委員会に報告し、組織的対応を図る。組織が中心となり、当事者に事実確認をとり、適切な指導を行う。
- ・ 重大事態調査とその対応。

◎すばやい事実確認とすばやい適切な指導

- ・ いじめと疑われる場面を目撃した場合には、その場ですぐに事実確認を行う。双方の話をしっかりと聞き取ることを大事にすること。場合によっては、複数で聞き取りを行うこともある。
- ・ 聞き取った情報は、児童情報共有システムへの記録と学年別いじめ対象児童シートに記入し、担任への報告を確実に行うこと。いじめた児童には、適切な指導を行う。その後いじめ防止対策委員会に報告する。
- ・ 重大事態と判断される場合は速やかに第三者組織との連携のもと、調査を行う。

◎安全確保の最優先

- ・ 被害児童の安全確保を最優先とし、安心して学習が行えるよう環境を整える。
(場合によっては、いじめた児童の別室学習もあり得る)

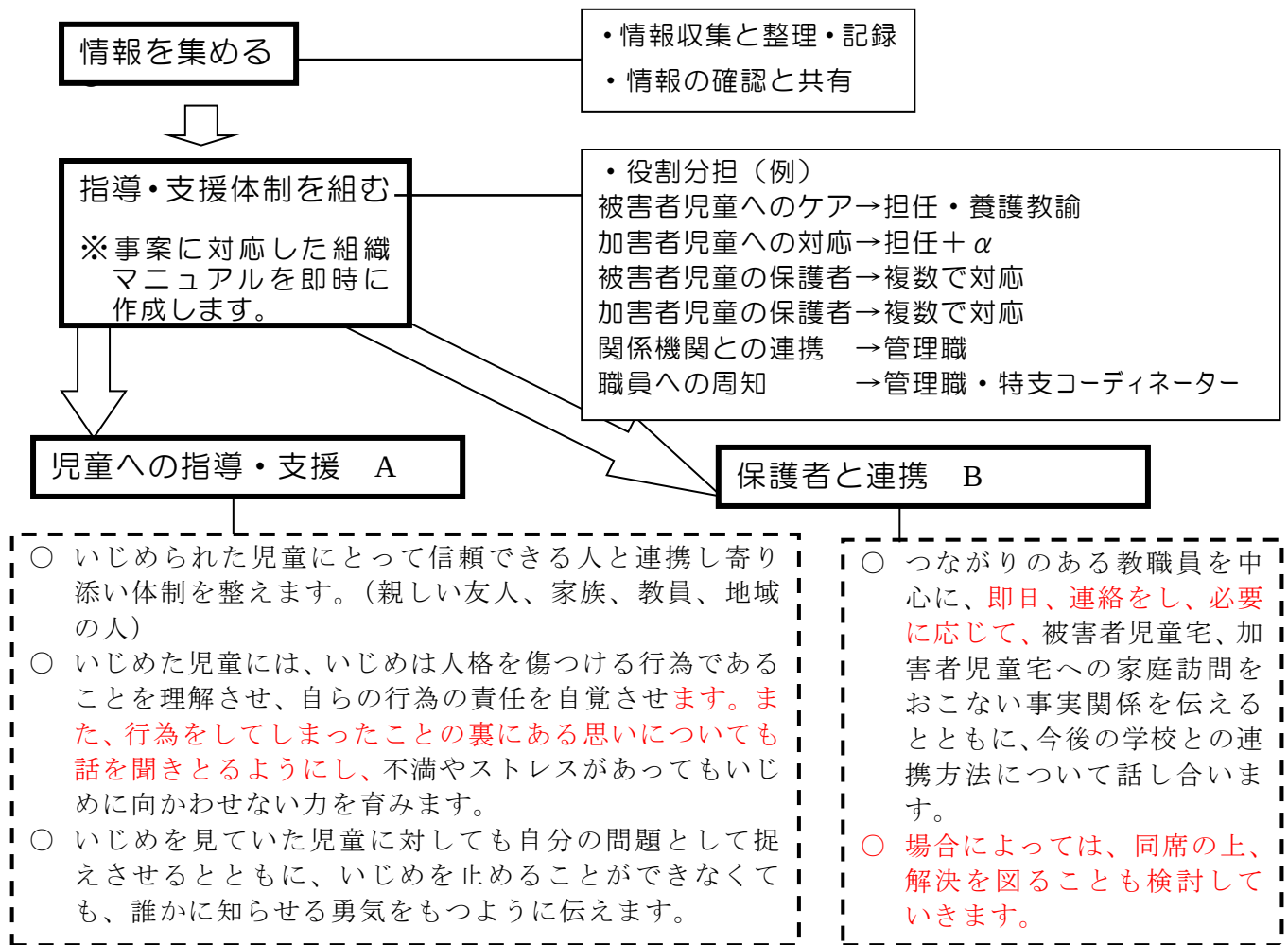
◎被害児童及び加害児童の保護者への対応

- ・ いじめの事実関係を掌握したら、すみやかに保護者へ連絡を取り、保護者の不安を取り除くことができるよう対応する。また、加害児童の保護者へもすみやかに連絡を取り、保護者の理解・協力を得て、再発の防止を図る。

5. いじめ防止対策組織

- ・ 組織 ノホ口の丘小学校いじめ防止対策委員会
- ・ 構成員 校長 教頭 主幹教諭 養護教諭 教務主任 指導部長 保健主事
学年主任 担任 特別支援教育コーディネーター
スクールカウンセラー スクールソーシャルワーカー
- ・ 役割 いじめ防止にかかわる基本方針の立案・作成
→事案が起きた場合には、早急に開催する
いじめの情報の共有 解消までの情報共有
→月に一度 生徒指導委員会で確認、記録する
教職員への啓発・研修 いじめの未然防止やいじめの対応についての研修
→月に一度 生徒指導集会で実施
いじめの相談窓口
- ・ 重大事態に関わる第三者組織
警察、児童相談所、教育委員会、スクールロイヤー

・取組の具体



【 事案後の再発防止の対応 】

- ◎ 週単位、あるいは隔週単位で被害児童に「その後」の様子について聞き取り、継続していないかどうかの把握を行います。併せて、保護者へも児童の様子について聞き取りを行います。継続がない場合は、被害児童だけでなく、加害児童にも声かけも行います。
- ◎ 把握した情報については、被害・加害児童の保護者に、適切に伝え、今後とも家庭での見取りなどもお願いし、学校と家庭の両方で見守っていくことを確認していきます。

【 事案後の指導の見直し 】

- ◎同様のいじめが発生しないように、認め合う人間関係の集団づくりを進めるよう「いじめの未然防止の具体的な取組」の見直しや工夫を図ります。